

奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画 平成23年度事業評価

No.	事業名	課名	開始年度	方向性	総合評価	協働に対する総合評価の理由など
1	もてなしのまちづくりの推進	協働推進課	H19	継続	E	平成22年度から推進団体の募集を始めたが、応募がなく、実際に団体と協働するには至っていない。
2	地域人権教育支援事業	人権政策課	S48	継続	B	地区別研修会のあり方を改め、自主的な活動とするための協議の場をもう少し持つようになれば、より効果的な事業展開とすることができる。
3	中学校給食弁当導入	保健給食課	H20	継続	B	配膳ボランティアとともに、弁当選択制の事業が達成できた。
4	教職員教科研修事業	教育支援課	-	継続	A	活動団体と事前打合せを密に行い、ねらいに沿った教職員研修を開催することができた。
5	学校規模適正化検討協議会との協議	教育政策課	H20	継続	C	協議会との協議が始まっていないため、総合的にはCとした。ただし、各校区に市が考える適正化の目標年次を示し、学校の現状や計画案について説明していることから、一部の評価項目についてはBとしている。
6	地域で決める学校予算事業(学校支援地域本部事業)	地域教育課	H20	継続	A	中学校区を単位とする、学校と地域の連携・協働が進み、地域全体で子どもを守り育てる体制づくりが進んだ。
7	子ども居場所づくり推進事業	地域教育課	H14	廃止	B	地域の人材や環境を生かすことにより、事業の充実につながると考える。 (廃止の理由:NO.8「放課後子ども教室推進事業」と一本化するため。)
8	放課後子ども教室推進事業	地域教育課	H19	継続	B	事業及び活動内容の啓発を進めることにより、協力者が拡大し、事業の充実が図れると考える。
9	黒髪山キャンプフィールド管理運営	地域教育課	H12	継続	B	目的を共有し、より良い施設になるように管理運営並びに事業の実施に取り組んできたが、施設利用者を増加させるに至らなかった。
10	生涯学習センター・各公民館における主催事業の協働	地域教育課	H13	継続	B	目的の共有や互いの特性を踏まえた役割分担などはできているが、「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という意識や緊張感を保った関係づくりに課題が残ると考えるため。
11	公民館運営審議会	地域教育課	S26	継続	B	委員の方々の経験や知識を活かし活発に審議できたが、積極的に公民館事業の企画実施に落とし込んでいくことはできなかった。
12	おはなし会	西部図書館	H20	継続	B	おはなしの会との協働はうまく実施できているが、目標値の達成は難しい。
13	市民考古サポーター活動事業	埋蔵文化財調査センター	H21	継続	B	活発な活動はできたと思うが、その一方でサポーター間での経験差によって広がった格差を改善しながら協働できたとは言いえないため。
14	奈良市文化振興計画	文化振興課	H19	継続	C	奈良市民文化振興基金を活用した新進気鋭の芸術家への支援について、施策に反映させることができなかったため。
15	ならまちわらべうたフェスタ	文化振興課	H5	継続	A	地域の各団体の持ち味を生かした手作りのイベントとして、互いの立場や特性を相互に理解しながら取り組み、各々の役割を果たすことができた。
16	地域福祉活動の支援事業	福祉政策課	H16	継続	B	対等で、お互いにパートナーとして主体性を活かしつつ、プロセスを重視して取り組んでいるが、達成目標数には至っていない。今後は、より一層の協働関係を深め、期間やプログラム内容を検討する。
17	視覚障がい者向け広報等発行事業	障がい福祉課	S57	継続	B	互いの役割分担は十分行えている。この事業の根本である市広報誌作成の段階から協議等をする体制が出来れば、よりよい物を視覚障がい者に提供出来ると考える。
18	認知症サポーター養成講座	長寿福祉課	H20	継続	B	講座直後は認知症に対する意識の変化、自分の役割について意識することができるが、それが継続して保持できているか、確認したり、スキルアップする体制が未確立であるため。
19	20日ならウォーク	健康増進課	H18	継続	A	23年度から始めた奈良市運動習慣づくり推進員協議会主催のウォーキングにおいて、コースづくりから当日の運営や反省会に至るまで実施することができた。また、各取り組みの方向性や展開方法について検討、役割分担を認識し行動することができた。
20	食生活改善地区組織活動推進事業	健康増進課	H5	継続	A	食生活改善推進員による活動は市民同士の伝達となるため、健康情報が具体的であり、生活に取り入れやすい。伝達講習の場に限りなく、常に身近な生活場面で健康情報を伝えることができている。
21	奈良市食育推進会議	保健総務課	H20	継続	B	協働の原則のうち、協働相手の自主性尊重、自立化推進や目的共有、互いの特性を踏まえ補い合った役割分担が「B少してきた」であったため。また、情報公開について「Cどちらとも言えない」であったため。
22	医療相談事業「春うらら会～神経難病患者・家族の集い」	保健予防課	H16	継続	A	対象者の病気の進行に伴いボランティアとしての役割や責任についての考え方に戸惑いが見られたが、協議のうえ方向性を決めながら運営できた。
23	住まいの耐震化のすすめ	建築指導課	H22	継続	-	平成23年度は実施せず。
24	自主防災防犯組織活動交付金	危機管理課	H18	継続	B	防災防犯意識は高まったと実感しているが、各地区での参加型の自主防災防犯活動がより多く実施できれば、さらなる防災防犯意識の向上につながると思うため。
25	消防団協力事業所表示制度	総務課	H24	完了	C	奈良市消防団活性化等検討委員会からの提言により制度導入への事務を進めたが、制度構築は行政が単独で行ったため。(完了の理由:「消防団協力事業所表示制度」が構築できたため。)
26	独り暮らし高齢者世帯防火訪問	予防課	S46	継続	B	防火訪問を実施したクラブは意識の充実強化を図ることができたと思われるが、未実施のクラブ等があった。
27	幼年消防クラブの育成及び活動	予防課	S62	継続	B	消防出初式には全クラブの参加があったが、施設見学会への参加は一部のクラブにとどまった。
28	応急手当普及啓発活動事業	救急課	H6	継続	B	講習会受講者より講習内容は高評価であった。応急手当の必要性の理解を得られた。
29	放置自転車ゼロ商店街計画	防犯・交通安全課	H23	継続	C	啓発活動実施に向け進めていたが、実施には至っていないため。
30	地域防犯活動推進事業	防犯・交通安全課	H21	継続	B	活動団体には自主的な活動を願っているが、活動内容について協議する場を持つことができればよりよい安全・安心なまちづくりを推進することができると思うため。
31	奈良市地球温暖化対策地域協議会	環境政策課	H21	継続	B	行政と会員との間で事業活動の目的を共有しているものの、互いの役割分担が不明確であり、役割に対する認識の統一が不十分であると考えられるため。
32	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」	協働推進課	H20	継続	B	アダプトだよりの作成ができなかったため、活動の紹介があまりできなかった。
33	佐保川清掃	まち美化推進課	-	継続	B	美化活動から出るごみの収集及び処理を支援することで、住民の美化活動を推進することができた。
34	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業	生活衛生課	H15	継続	B	自治会との連携により、事業の認知度は高まっているように思われる。しかし、動物に対する個々の意識の違いが大きく、協働事業推進の妨げとなっている。
35	環境フェスティバル、ならクリーンフェスタ	企画総務課	H6	継続	B	市が企画し、協働相手の市民等が関わるのは実施からという現況で、互いの関係性の確立が難しく、自立を促せないため。

No.	事業名	課名	開始年度	方向性	総合評価	協働に対する総合評価の理由など
36	グリーンセンター建設計画策定事業	施設課	H17	継続	C	グリーンセンターの建設という共通の目的に対し、各委員それぞれが発言していただいたが、意見集約ができないことがあった。
37	まちかど景観発掘隊	景観課	H22	継続	A	協働で開催することにより、新たな街かど景観を発掘し、今後のまちづくりに生かせると考えたため。
38	違反広告物を出さない街づくり推進団体	景観課	H16	継続	B	各団体の自立化はできているが、団体毎に温度差があるため。
39	都市計画道路整備事業(三条線)	街路課	H8	継続	B	良好な歩行者空間を整備することを目的に、住民のための道路であるという意識を培い、相互理解を尊重し進めている。
40	グリーンサポート制度	公園緑地課	H20	拡大	B	参加団体の増加に伴い、市民に協働の輪が広がってきている。
41	山の辺の道・奈良道の活性化事業	観光振興課	H21	完了	A	守る会の自主性を尊重したうえで、それぞれの役割を分担し、年度内の目標を達成することができた。 (完了の理由:山の辺の道・奈良道の整備が完成したため。)
42	なら燈花会開催事業	観光振興課	H11	継続	B	ボランティアの協力なくしては立ち行かなくなるイベントであり、奈良市としても今以上にボランティアの方々と関わりをもつことができるため。
43	観光情報発信力研修	人事課	H20	継続	B	研修内容について、計画段階においては、協働相手と一緒に考えることができたが、改善段階においては、相談などで十分に改善が行えなかった。
44	月ヶ瀬梅林周遊道路整備	道路建設課	H17	継続	D	改修委員会から権利者への説明が不十分ことから、用地取得に時間を要した。
45	奈良工芸フェスティバル	商工労政課	H1	継続	B	企画内容、実施方法等については実行委員会が主体で行っており、自主的な活動がなされている。
46	開かれた市政	秘書課	H21	継続	C	この事業内容が協働の意識を高めるためのきっかけを作る段階であるため評価が出にくい。
47	まちかどトーク	広報広聴課	H18	継続	A	前年度より参加者等が増加し、市政への関心等を深めることができた。
48	「奈良しみんだより」の英訳	広報広聴課	-	継続	A	評価項目について、事業の目的を達成できているため。
49	パブリックコメント	広報広聴課	H17	継続	A	市の政策の基本的な計画づくりを市民とともに意見交換することができた。
50	タウンミーティング	地域活動推進課	H18	継続	A	市と自治連合会が協働して開催できた。
51	まちづくり振興事業「月ヶ瀬地域振興協議会」	月ヶ瀬行政センター地域振興課	H17	継続	B	目的を共有し地域振興に係る事業の実施を行ってきたが、お互いの役割の明確化や協働相手の自主性・自立化についての協議を深めることができなかった。
52	都祁まちづくり協議会事業	都祁行政センター地域振興課	H17	継続	B	それぞれの役割について更に協議を進める必要があるが、年次目標も達成され、都祁地域の活性化につながった。
53	地域要望を聞く会	地域活動推進課	H18	継続	A	地域要望を聞く会を開催し、市長以下市の幹部が地域の声を直接聞いた。
54	奈良市市民公益活動推進会議	協働推進課	H20	完了	A	公募による市民公益活動団体と目的を共有しながら、市民目線での意見を聴取することができた。 (完了の理由:奈良市市民公益活動推進会議の役割が終了したため。)
55	協働のための研修	協働推進課	H20	継続	E	研修の中で協働の事例を紹介することはあったが、市民が参加して研修を実施することができなかったため。
56	自治連合会等活動推進	地域活動推進課 他	-	継続	B	地域コミュニティの再生には努力されているが、情報共有や意見交換がもう少しできればよいと考えるため。
57	入札制度の適正化	契約課	-	継続	B	各委員会との連携は良い評価を与えられるが、ホームページ掲載による市民への情報提供については、より一層わかりやすい掲載を目指す必要がある。
58	租税教室の開催(講師の派遣)	市民税課	H20	継続	B	お互いに、役割を分担しながら、可能な範囲で事業の実施を行えたと考える。
59	奈良市中心のふるさと応援寄附促進事業	納税課	H20	継続	B	寄附をふやすためには手法の再構築が必要。